

産業
厚生

ふらの農業協同組合で アスパラガスの栽培方法を学ぶ ～北海道・富良野市～

ふらの農業協同組合は、北海道の中央・上川管内の南部に位置する富良野市ほか3町1村を区域とし、本所のほかに5つの支所があります。

今回は、二ツ沼総合公園の直売所等で販売が計画されているアスパラガスの生産および販売方法を学ぶため、ふらの農業協同組合の本所でアスパラガスの栽培方法を研修しました。

同組合におけるアスパラガスの販売高は、全体の1.2%に過ぎないそうですが、1戸あたりの栽培面積は平均で4haと広く、6kgごとに箱詰めされて全国各地に出荷されているそうです。

中でも、本所で働く職員や嘱託・パート従業員の真摯で機敏な働きぶりには、基幹産業の農業を支えているという気概と我が国最大の食糧供給地域であるという誇りを感じ、驚きと感動を覚えました。

わが町の農業は稲作が中心であり、農外収入が得やすい環境にありますが、今後の世界的な食糧不足にも対応できるよう、もっともっと農業に力を入れて行くべきだと感じました。



アスパラガス栽培農家のほ場を視察

産業
厚生

世界自然遺産「知床」の 自然保護に学ぶ

～北海道・斜里町～

わが国最後の秘境といわれる「知床」は、平成17年(2005年)7月に、日本で3ヶ所目となる世界自然遺産に登録されました。

面積は71,000haで、知床国立公園(38,633ha)を含んでいます。

昭和49年(1974年)、知床半島に位置する斜里町と羅臼町は共同で「知床憲章」を制定し、知床の自然を人類共通の財産として、末永く子孫に伝えて行くことを明確にしました。

そのうえ、ヒグマなどの野生生物と観光客や住民とのトラブルを回避するために、パトロールや保護対策を行なうなど、快適な利用環境のもと、自然保護とその資源を生かした観光業および地域振興の融合に努めています。

また、列島改造ブームのおりには「しれとこ100平方メートル運動」を推進して全国的に参加者を募り、乱開発を未然に防ぐなど、開拓離農地の保全と再生にも努めています。

「自然を守る」という単にそれだけのことも知れませんが、その影には多くの人々の善意とたゆまぬ努力がありました。



知床八景のオシンコシンの滝(斜里町)

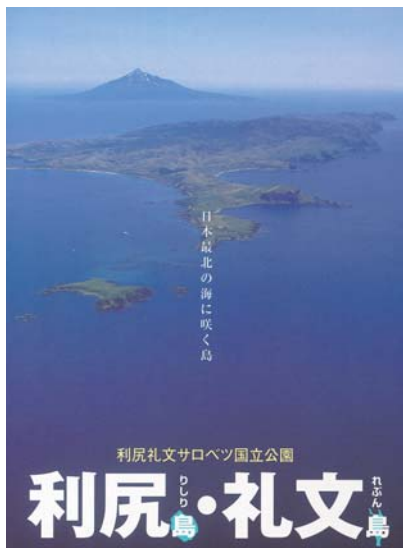
総務文教

「利尻礼文サロベツ国立公園」を核とした地元自治体による地域振興および観光事業に学ぶ

北海道・利尻富士町



町づくりへの思いを語る京谷議長（写真右から2人目は吉田町長）



3町が共同で作成した広域観光パンフレット（表紙）

北海道の最北端、稚内市の西に浮かぶ利尻、礼文の2島と、稚内から南に続く稚咲内（わかさかない）の海岸と、サロベツ原野

わが国において、離島地域は、「わが国の領域、排他的経済水域の保全」、「豊かな自然環境・生態系の保護・保全を行う場」としての国家的役割や、「良質な水産物の安定供給」、「自然とのふれあいを求める癒しの空間」として、国民の利益と福祉の増進に寄与する役割を担っています。

利尻富士町もこうした役割を担い、美しく豊かな自然が残されていました。人口の減少、少子・高齢化の進行や地域産業の低迷など、厳しい状況にありました。

同町では、これまで進めてきた各種基盤の整備に加え、離島地域の特色を生かした体験型観光施設の整備や、地域素材を活用した土産品や特産品の開発を進めています。同じ島内にある利尻町や、礼文島にある礼文町と共同で広域観光パンフレットを作成して経費の節減をはかるなど、

多彩で魅力ある観光エリアを形成しつつ誘客にも努めています。北の離島は、あり余るほどの大自然や極上の水産資源など、訪れる者を驚かせ、感動をあたえずにはおかない素晴らしさがあります。が、厳冬期や荒天の場合、海はもちろん、空さえも島外からの来訪者をこぼみ続け、島内での生活を強いられるという厳しい現実があります。

けれども、そこには離島というハンデを最大限のメリットに代えて力強く生きる、素朴で人情味あふれる人々が、大勢暮らしています。

わが町には、北の大地や離島と比べるべき自然は無論ありませんが、首都圏から約200kmと近く、高速交通網の中に組み入れられ、温暖な海洋性気候のもと日照時間が長いという好条件にも恵まれています。

今こそ先人達の「精神的遺産」を守りつつ、「地域住民と行政の協働によるまちづくり」を推し進め、観光客の誘客や交流人口の拡大、企業誘致や定住人口の増加など、より真剣に取り組みべきです。



さまざまな内容を協議する総務文教常任委員